

和暦 (年度)	平成 24	25	26	27	28	29	30	令和 元	2	3	4	5	6
西暦 (年度)	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
大阪市	地域福祉推進指針						地域福祉基本計画						
北区							北区地域福祉計画 (第1期)			北区地域福祉計画 (第2期)			

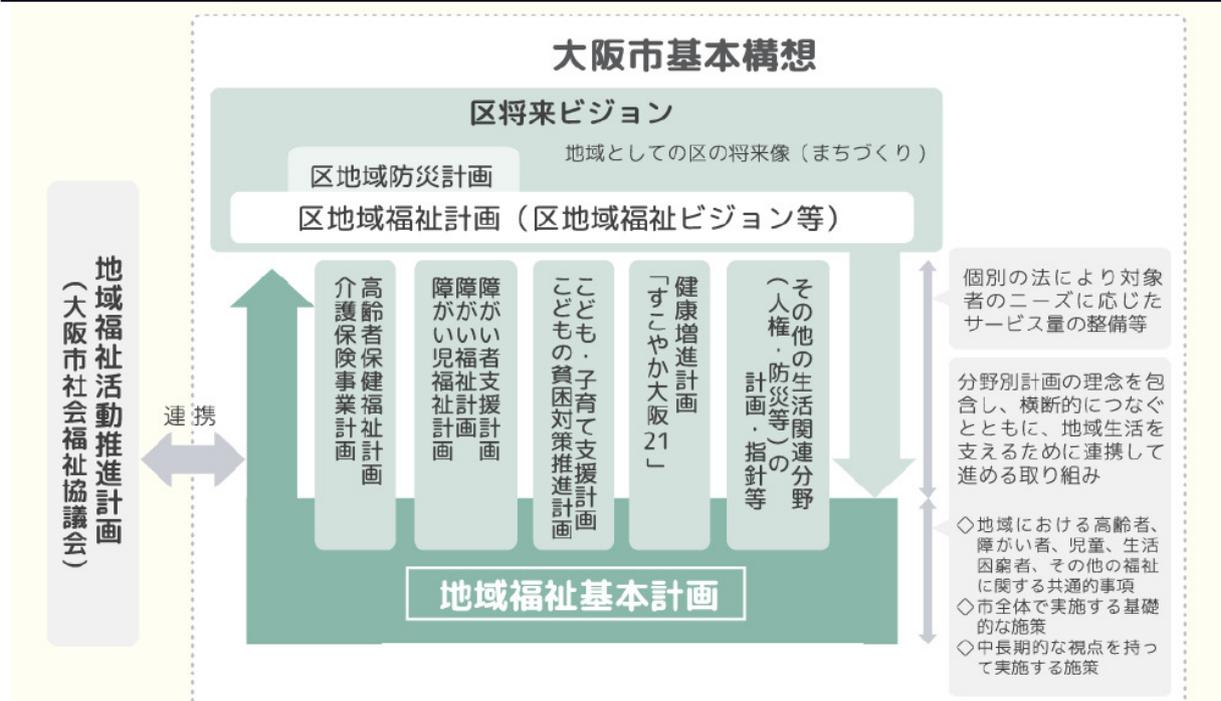
北区においてもこの指針に沿い、地域福祉を推進するための基盤や仕組みづくりを進めるため、平成27(2015)年3月、第1期の「大阪市北区地域福祉計画」(平成27年度～平成31年度)を策定し、北区の特色ある地域福祉の取り組みを進めてきました。

この第1期の計画期間が終了することから、このたび「第2期大阪市北区地域福祉計画」(以下、「本計画」という。)を策定するものです。

本計画は、「大阪市地域福祉基本計画(平成30(2018)年度～令和2(2020)年度)」をはじめとする市の各種計画(「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」、「大阪市障がい者支援計画・障がい福祉計画」、「大阪市子ども・子育て支援計画」等)を踏まえ、北区の特性に応じた計画となっています。

本計画に基づき、区民一人ひとりが自分らしく生きることのできる、地域福祉が充実した暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

大阪市地域福祉基本計画の位置づけと区地域福祉計画との関係



資料：大阪市ホームページより

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000430584.html>

(3) 計画の推進

本計画は、福祉のまちづくり（地域福祉の推進）を実現するため「基本理念」と「大切にしたい視点」、「取り組みの柱」で構成しています。（第3章）

各々の事業や取り組みについては、主に北区役所が主体となり、北区社会福祉協議会（以下「区社協」）、や区民及び地域団体、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、医療機関、企業・事業所、各種団体等の関係機関が、各々の役割を果たしながらお互いに協力・協働して、実現していくものです。

2 計画の期間

本計画は、令和2（2020）年度から令和6（2024）年度の5年間を計画期間とします。

3 計画策定の経過

本計画の策定にあたっては、これまでの第1期計画の取り組みの成果や課題を検証するとともに、区民の暮らしや地域福祉に関する意見、関わりなどを把握するため、各種のアンケート調査やヒアリング調査を実施しました。また、北区地域福祉推進会議や北区地域支援連絡会議（P38参照）での意見を集約し本計画を策定するに至りました。

4 計画の推進方法

本計画に基づいて策定される「地域福祉活動計画（区社協策定）」や具体的な取り組みを協働して進めるための行動計画である「小地域福祉活動計画（各地域策定）」の策定や振り返りのほか、区・地域の実情に応じた地域活動を推進・支援します。

また、これらを着実に推進していくために、PDCA^{*}の考え方に基づく取り組みを行います。

^{*}PDCA：事業を継続的に改善するしくみのこと。P（Plan：計画）→D（Do：実行）→C（Check：評価）→A（Action：改善）

第2章 北区の現状

1 データに見る北区の現状

図表1 北区の現状データ

項目			24区中の順位	出典
人口	総数	136,602人	第6位	令和元年12月1日現在 大阪市人口推計
	増加率	2.2%	第5位	平成30年12月1日から 令和元年12月1日現在 大阪市人口推計
	昼間人口	411,133人	第2位	平成27年国勢調査
人口構成	年少人口（15歳未満）割合	9.3%	第21位	令和元年12月1日現在 大阪市人口推計
	老年人口（65歳以上）割合	18.6%	第22位	令和元年12月1日現在 大阪市人口推計
単 独 世帯 [*]	単独世帯率	61.8%	第4位	平成27年国勢調査
	高齢者のいる一般世帯のうち、単独世帯率	43.3%	第5位	
外国人登録人口		5,453人	第9位	平成31年3月末現在 大阪市住民基本台帳人口・外国人登録人口
障がい者手帳（身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳）をもっている人		6,798人	第15位	平成31年3月末現在 大阪市区政概要
要介護認定者	総数	5,306人	第17位	平成31年3月末現在 大阪市介護保険統計資料
	要支援1・2	2,034人	第16位	〃
	要介護1・2・3	2,138人	第17位	〃
	要介護4・5	1,134人	第16位	〃
認知症高齢者等 （要介護認定者のうち日常生活自立度Ⅱ以上）		1,372人	第14位	平成31年4月1日現在 大阪市要介護認定データ
事業所数		26,275事業所	第2位	平成28年経済センサス活動調査結果

- 北区の人口総数は136,602人（令和元年12月1日現在）。24区中では第6位。
- 北区の人口総数の対前年の増加率は2.2%で、24区中第5位。
- 24区中の順位をみると、昼間人口が第2位、事業所数が第2位という結果である。
- 24区中、年少人口割合は第21位、老年人口割合は第22位である。

^{*}単独世帯：世帯人員が一人の世帯のこと。

(1) 人口構造

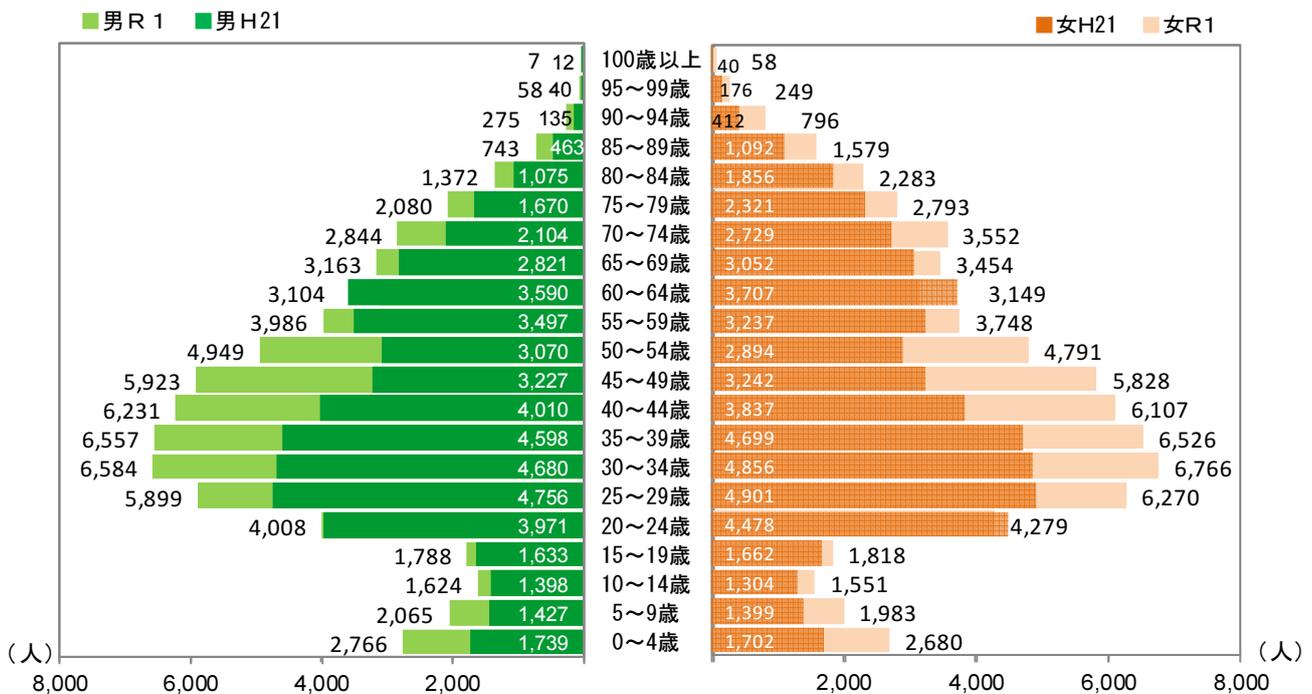
北区の人口ピラミッドをみると、男女ともに30歳代が最も多く、15～64歳の生産年齢人口のなかでも25歳から49歳が多い構造となっています。未成年のうち、10～19歳は比較的少ないものの、9歳以下の人口は増加しています。

年齢3区分人口の長期的な推移をみると、すべての層で増加しています。総人口に占める年齢3区分の構成比をみると、生産年齢人口※の割合が上昇しています。

全国的に人口減少や高齢化が進むなか、北区では、ここ10年において、20代～40代や4歳以下の人口が大きく増加している特徴がみられ、全体として、高齢化率が比較的低く、生産年齢人口が多いという都市型独特の人口構造となっています。

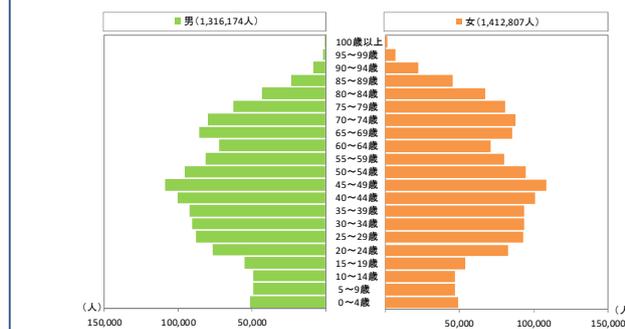
また、近年の人口の自然動態をみると、出生数が死亡数よりも多い「自然増」の状態です。社会動態については、その数の大きさから人口移動が激しい区域と言え、転入数が転出数よりも多い「社会増」の状態が続いています。

図表2 北区の人口ピラミッド(平成21年→令和元年)



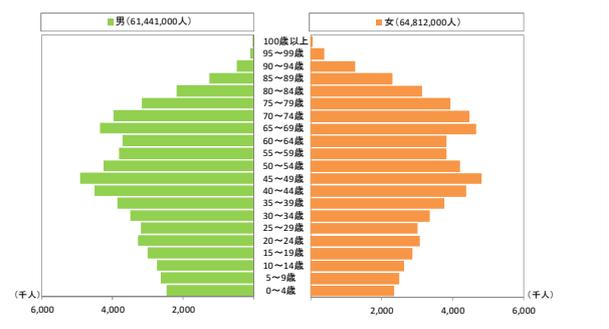
資料：大阪市「推計人口」(令和元年10月1日、平成21年10月1日)

◇参考 図表3 国(平成31年)



資料：大阪市「推計人口」(平成31年4月1日)

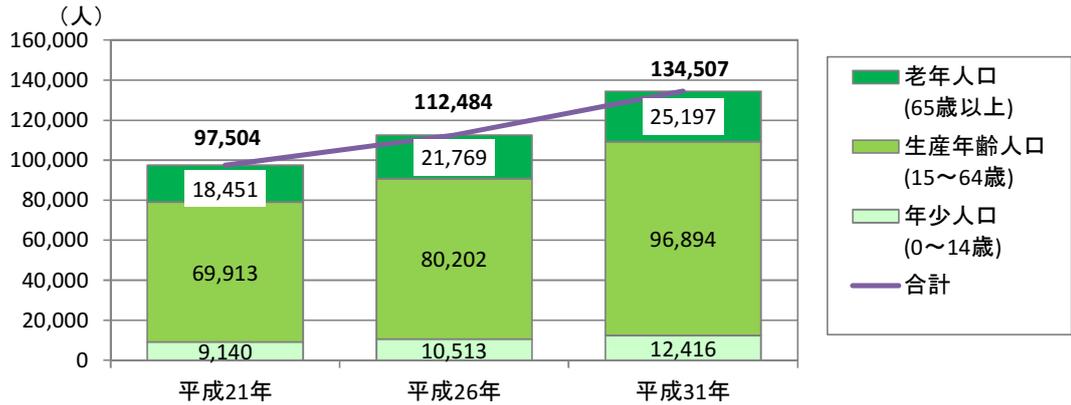
図表4 大阪府(平成31年)



資料：総務省「人口推計」(平成31年4月1日)

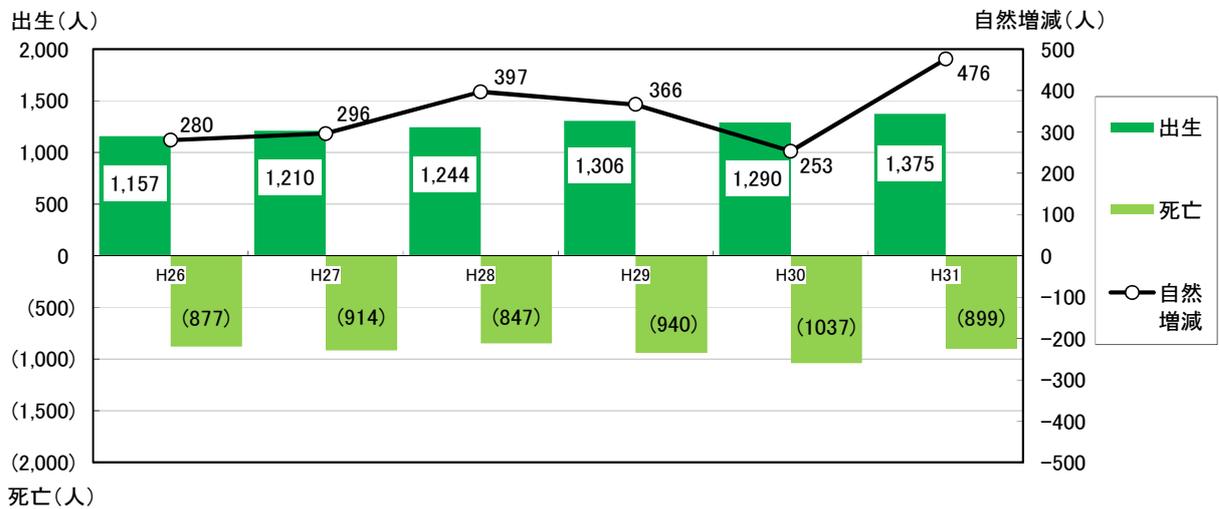
※生産年齢人口・・・生産活動の中心となる15歳以上65歳未満の人口

図表5 北区の人口・年齢3区分別人口及び構成比



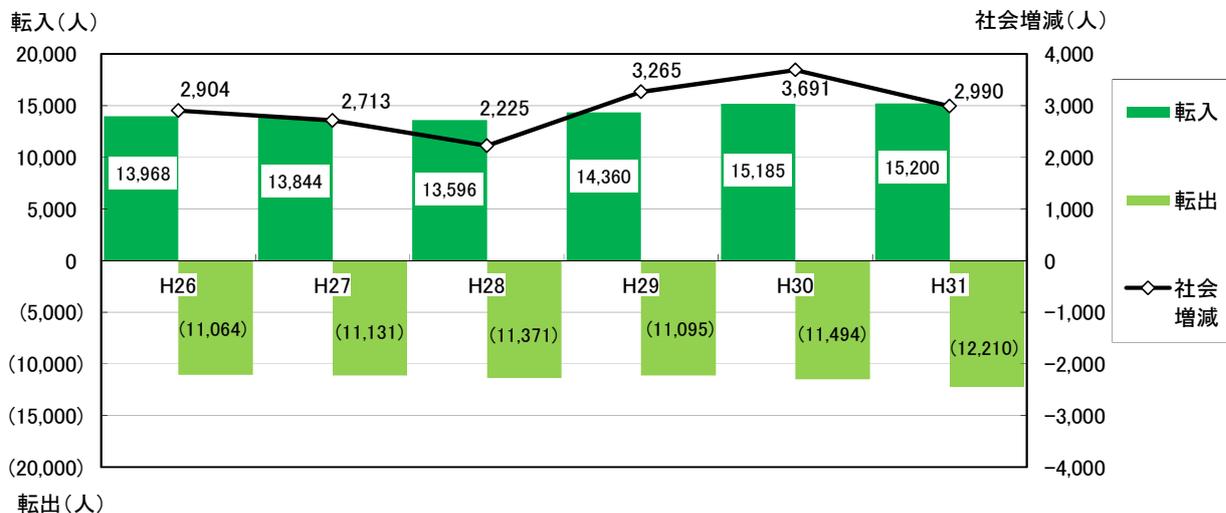
資料：大阪市「推計人口」(各年4月1日)

図表6 北区の自然動態(出生数・死亡数の推移と自然増減)



資料：大阪市推計人口年報(各年10月1日現在)

図表7 北区の社会動態(転入数・転出数の推移と社会増減)



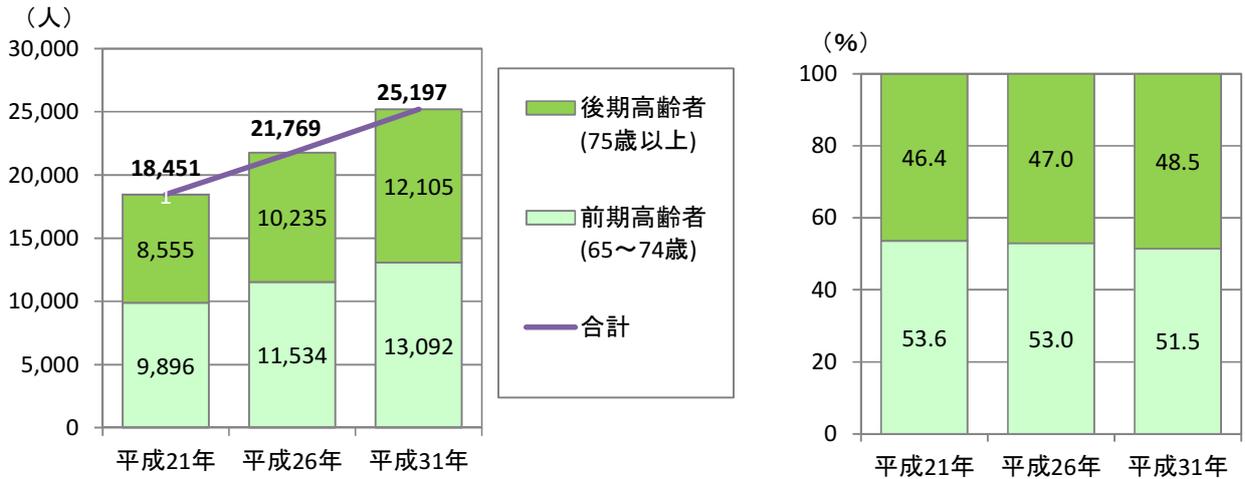
資料：大阪市推計人口年報(各年10月1日現在)

(2) 高齢者について

北区の高齢者人口は、65歳から74歳の前期高齢者、75歳以上の後期高齢者ともに増加しています。構成比をみると、前期高齢者の割合よりも、後期高齢者の割合が上昇しており、団塊の世代（昭和22～24年生まれの人）が75歳以上の後期高齢者となる令和7（2025）年に向け高齢化が進んでいます。

国勢調査によると、65歳以上世帯員のいる世帯において、北区の単独世帯率は43.3%と全国の27.3%と比べて16ポイント高くなっています。

図表8 北区の高齢者数(前期・後期)の推移

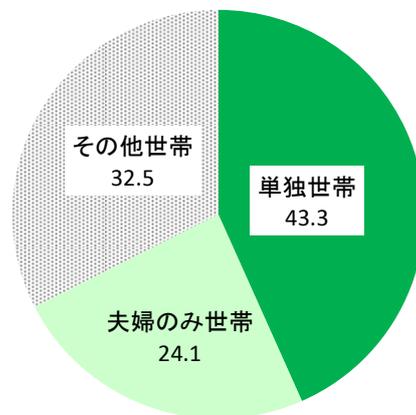
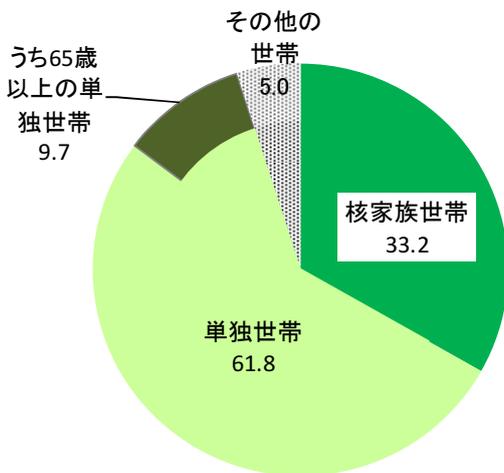


資料：大阪市「推計人口」(各年4月1日)

図表9 北区の世帯構成

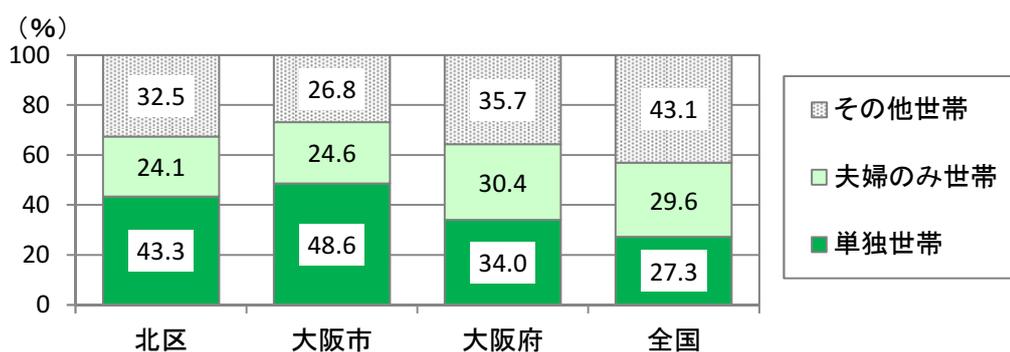
<図表 9-1 北区の一般世帯構成>

<図表 9-2 65歳以上の高齢者がいる一般世帯の構成>



資料：国勢調査（平成27年10月1日）

<図表 9-3 65 歳以上の世帯構成(比較)>

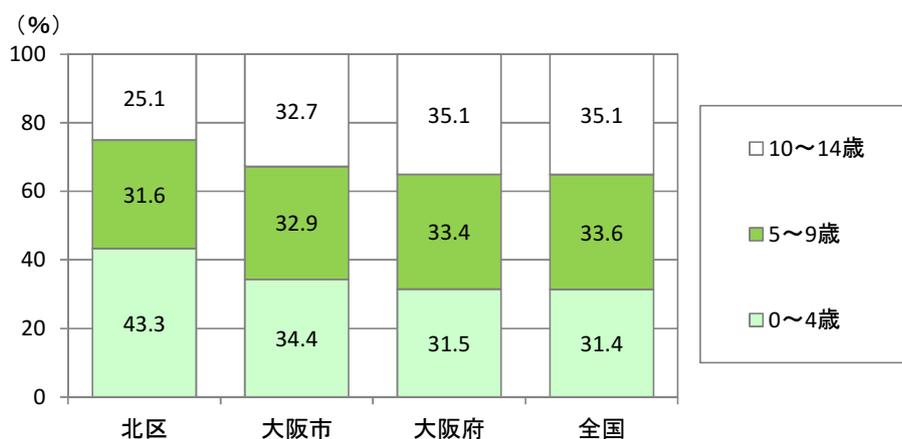


資料：国勢調査（平成 27 年 10 月 1 日）

(3) 子どもについて

年齢3区分でみた北区の年少人口比率は9.2%となっています。この年少人口を5歳階級別の比率で見ると、0～4歳が43.3%、5～9歳が31.6%、10～14歳が25.1%となっています。0～4歳の割合は、国・府・市の値に比べて高くなっています。

図表 10 年少人口の年齢5歳階級別構成比

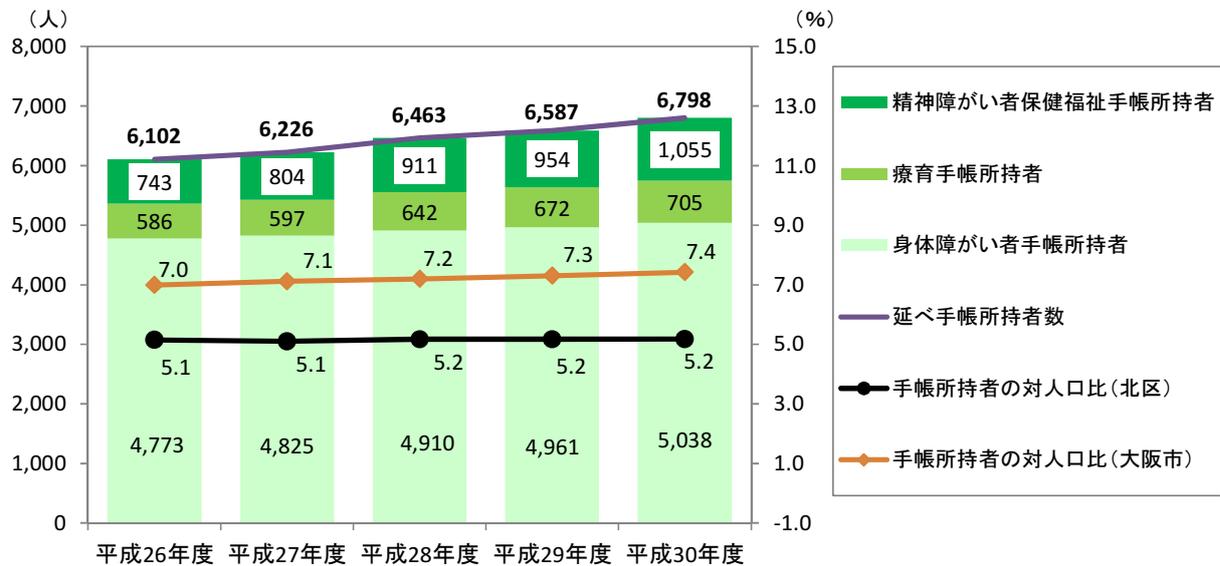


資料：大阪市「推計人口」、大阪府「推計人口」、総務省統計局「人口推計」（平成 31 年 4 月 1 日）

(4) 障がい者について

北区の障がい者手帳所持者数でみると、平成 30 年度末の身体障がい者手帳所持者は 5,038 人、療育手帳所持者は 705 人、精神障がい者保健福祉手帳所持者は 1,055 人となっています。これまでの推移をみると、いずれも増え続けています。手帳の延べ所持率は、大阪市平均に比べて 2.2%低くなっています。

図表 11 障がい者手帳所持者数等の推移

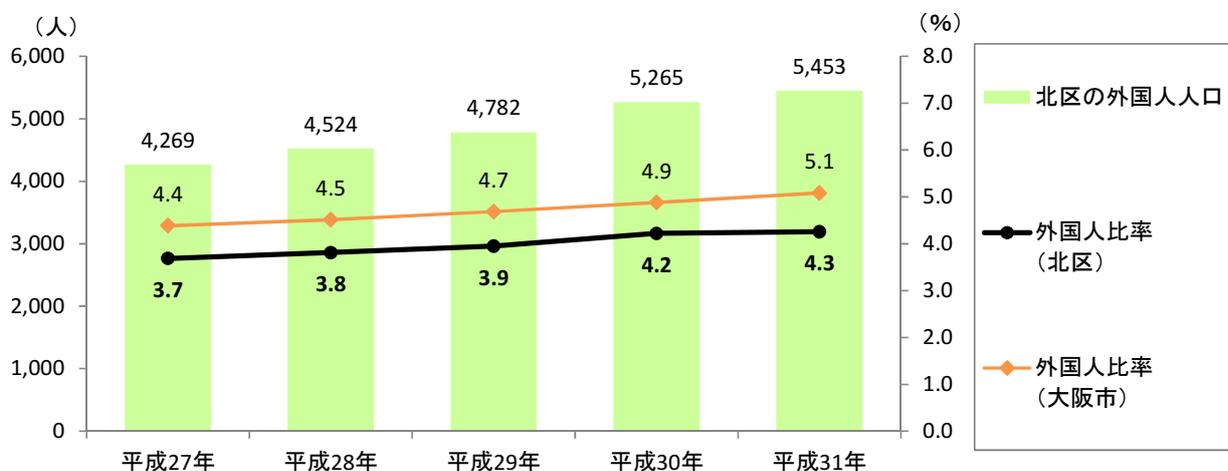


資料：大阪市福祉事業統計集（各年度 3 月末現在）

(5) 外国籍住民について

北区の外国籍住民の数は、年々増加しており、平成 31 年 3 月末現在で 5,453 人となっており、外国籍住民の比率（総人口に占める割合）も上昇し続けています。大阪市の比率に比べると低い値ではあるものの上昇とともに多国籍化が顕著になっています。

図表 12 北区の外国人人口及び外国人比率の推移



資料：住民基本台帳人口（各年 3 月末現在）

(6) 区の特徴

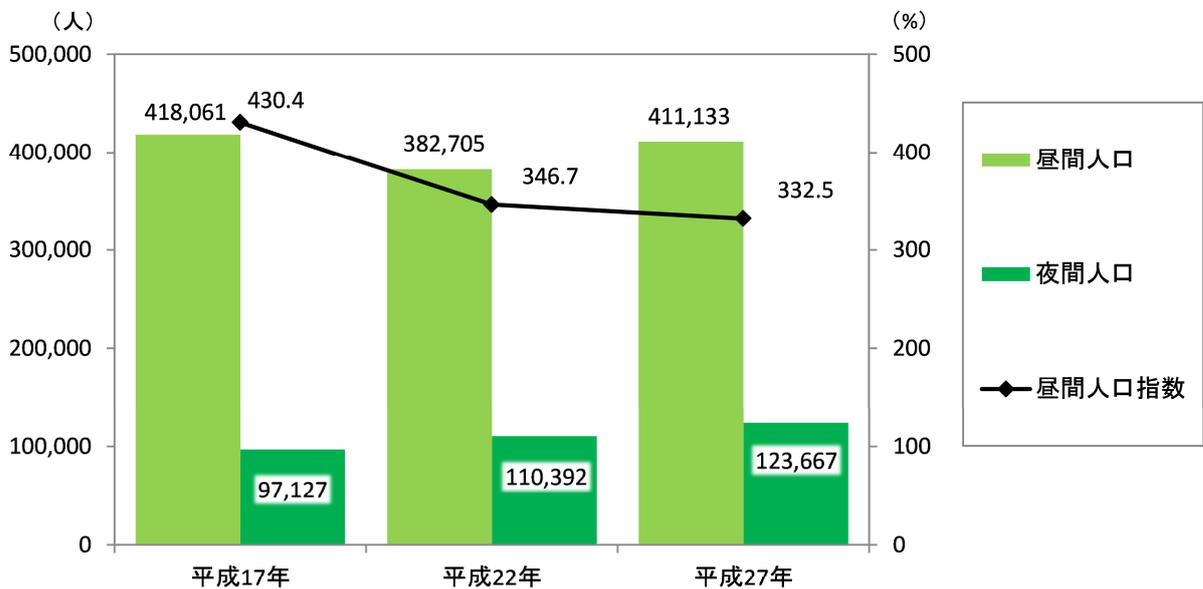
◇転出入が多く、人口移動の激しい区

北区人口は、令和元年12月1日現在で136,602人となりました。この10年間で約3万人、前年と比較しても約3千人の増加となっています。しかも1年間に1万人以上の人転出していますが、転入する人は転出数を上回っているため、近年は3千人前後の転入超過となっています。(6ページ図表7参照)。

なお、昼間人口^{*}は41万人を超え、昼間人口比率は332%（市内で2番目）と高くなっています。

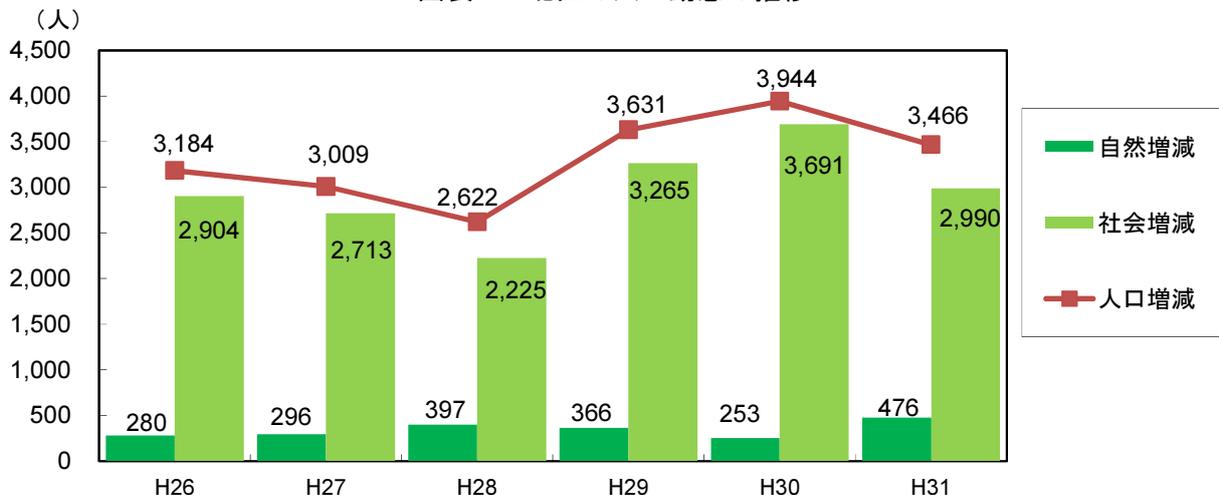
また、出生数が死亡数を上回る「自然増」、転入数が転出数を上回る「社会増」が続いており、人口動態は増加が続いています。(6ページ図表6・7参照)

図表13 北区の昼夜間人口比率の推移



資料：国勢調査（平成27年10月1日）

図表14 北区の人口動態の推移



資料：大阪市推計人口年報（各年10月1日現在）

^{*}昼間人口：就業地・通学地による人口。なお、国勢調査における人口は「常住人口（夜間人口）」。